

地域をまもる水物語 車池

— 兵庫県たつの市 —

兵庫県西播磨県民局光都土地改良センター 合 田 弘

1. はじめに

表紙写真、写真-1は、2月下旬夕刻、兵庫県たつの市揖西町新宮の山中にボツンとある「車池」を撮影したものです。

ちょうどこの日は、兵庫県西播磨県民局が実施する「歴史ある農業水利施設（ため池・井堰・水路等）の魅力発信」の一環で、岩田健三郎氏が行く「西播磨の旅～井堰やため池…疏水をめぐる～」の取材中で車池を訪れていました。



写真-1 車池右岸上流より堤体全景

2. 西はりま地域をまもる水物語について

「車池」¹⁾では、兵庫県たつの市揖西町新宮にある「車池」にまつわる伝説を紹介しています。かつて大雨による災害で村が水浸しになり、村人たちは池の主を鎮めるために少女を人身御供として捧げる決断をします。

悲劇的な出来事を通じて、地域の自然や文化、そして人々の苦悩等について、以下のように述べられています。

(1) 新宮村の状況 山がのけぞるほどに、風がうなる。大粒の雨が雑巾をたたきつけるように屋根を、板戸をうつ。大雨は休む間もなく降り続け新宮の村を水浸しにした。

鎮守の森へ行こう。誰が誘ったのでもない。全身ぬれぬずみの村びとたちの、どの顔も引きつっている。このままでは家も田畑も、村が流される。

「これは、普通の嵐とちがうで」

「そや、池の主が怒るとんじゃ。あのうわばみ(大蛇)は、うろこ一枚に一斗の水を持つとるそうな」

「なんでも、空を呼んで竜巻を起こすともいうでのお池の主の怒りを解くには村の娘を一人、いけにえにしなければならぬ、という言い伝えがある。

一体、だれの娘を…。

(2) 少女の運命と自然の脅威 一言でも、ものをいえば、わが娘に目が集まる。だから親は、おびえふるえる娘を背にかばいながら、ひたすら押し黙った。

その間も、谷あいから吐き出される水の、ごうごうと地響き立てる音は高まるばかり。

うずくまる親と子には、よけい大きく聞こえる。

だれしもわが子はかわいい。他人の娘を指名せぬ限り、口を開けばわが子をさし出すほかない。だんまり比べで心臓も氷る。その時、

「わたしでよかったら、大地の…」

か細い少女の声がした。

自ら進んで人身御供になろうと申し出た美少女に、今は村全体がひれ伏すしかない。同じ子を持つ親として、娘の父に何と声をかけるべきか。だが何をいってもそらぞらしくなる。人びとは黙って親子に両手を合わせた。

せめて親子の別れを、と思うが、もう余裕がない。

少女はあきらめ切った表情で、竹かごに乗った。手には糸引き車一つ。朝から晩までカラカラとまわしていたそれを膝の上に置き、村の女たちの泣く声をあとに、揺られて旅立った。

けわしい山道は、ぬかるんでいた。降りやまぬ雨で滑りもする。やっとの思いで大池のほとりにたどり着いたかごかきの男たちは、逃げるように戻って行った。

木々が激しく空をたたき、水面は海のようにうねっていた。それが、まるで飼いならされたけものように静まり、黒煙と見まがうしぶきをはね上がらせていた雨が、うそのようにやんだ。

(3) 車池の由来 村の人たちは、けなげな少女のため、墓を作り、少女の父と母を、ことあるごとにいた

わった。

やがて「大地の中からビーン、ビーンという声がきこえる」と、だれいうとなく語り始め、「あれはきっと生まれてくる赤ん坊のために少女が糸車をくっているのだ」とささやき合った。

大池を「車池」と呼ぶのは、それ以後のことだという(図-1)。

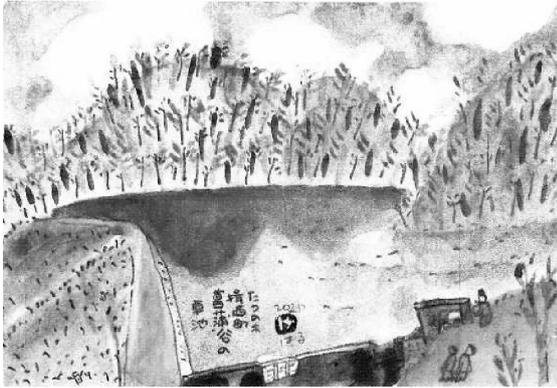


図-1 姫路市在住の版画家、岩田健三郎氏作²⁾

3. 車池の概要

地域の人々から親しまれてきた車上池、車下池は何回か改修されているものと思われませんが、改修記録は残されていません。

車池は、堤体の老朽化が進み、各所からの漏水が多いことや堤体が決壊する恐れもあり、1968(昭和43)年から3カ年をかけて大規模老朽ため池補強事業として、車上池を車下池に統合して車下池の旧堤体と取水樋管等を改修補強した前羽金式土堰堤です(写真-2)。

・貯水量：196,000 m³

・満水面積：3.4 ha



写真-2 車池改築記念碑

・受益面積：128.1 ha

・堤高：13.2 m

・堤長：108.8 m

灌漑地域は、たつの市揖西町新宮、構、竹万、田井、北山の5地区にまたがる、水田128.1 haを灌漑し、その水源は、車池、川池、地獄谷池等10カ所のため池です。

4. おわりに

兵庫県では、2015(平成27)年4月に「ため池の保全等に関する条例」を改正、施行しました。条例では、ため池の適正な管理の徹底に加え、ため池等の有する多面的機能の発揮の促進が明記されました。

この物語のように、地域で言い伝えられた民話は数多く残されており、ため池など農業水利施設に関する民話を読んでもみると、古くから農業水利施設と人々の関わりが深かったことがうかがえます。身近な農業水利施設ですが、ある時は、先人が命がけで造り、守り、私たちに残してくれた様子が民話の中に描かれています。

兵庫県では、ため池等の多面的機能の発揮の促進について広く県民の理解を得るとともに、今後ともその意識向上を促すため、啓発活動や情報発信など「ため池保全県民運動」として展開しています。

ため池など農業水利施設は農業のために水を貯めたり流したりするだけではなく、豊かな自然ややすらぎをもたらす貴重な水辺空間でもあります。また、ため池は雨水を一時的に貯める役割を果たしており、その洪水調整機能にも期待されています。

昔から先人により大切に扱われていたため池や井堰など、農業水利施設を深い感謝の気持ちをもって、私たち地域みんなで適切な管理を行い、次の世代へ残していきましょう。

引用・参考文献

- 1) 兵庫県西播磨県民局光都土地改良センター：車池、西はりま地域をまもる水(ため池・井堰・水路)物語、兵庫県西播磨県民局光都土地改良センター、pp.14~18(2017)
- 2) 岩田健三郎：気まぐれ日記 2025年2月28日、ヘラヘラつうしん(2025)
- 3) 兵庫県農林水産部農地整備課：兵庫のため池誌、兵庫県(1984)
- 4) 兵庫県農林水産部農地整備課：兵庫の土地改良史、兵庫県(1990)